

佐野の清流・菊沢川 ナガレコウホネとコウホネ



菊沢川中流域（菊川町）



博物館の齊藤さん



博物館の大島さん



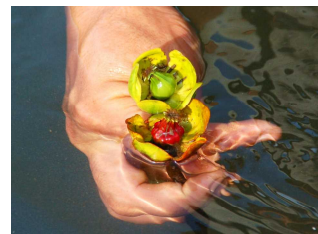
菊沢川下流域（船津川町）



当日の参加者。佐高からは3名。他に、宇大、宇東、宇南、小山南など

現在、栃木県で最も注目されている植物の一つは、おそらく**コウホネ**（の仲間）であろう。下野新聞では、今年4月以降「コウホネ」関係で8件の記事を掲載している。コウホネはスイレン科の水生植物であり、栃木県のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類にも選定されている希少な植物ではあるが、なぜ、これほどまでに注目されているのだろうか。

それは、2005年に栃木県で新種のコウホネ「**シモツケコウホネ**」（日光市と那須烏山市のみ生息）が発見されたことに端を発する。さらに、シモツケコウホネやコウホネに似ているが、どちらにも当てはまらない集団が見つかった。それらはシモツケコウホネとコウホネの雑種であることがわかり、2007年に**ナガレコウホネ**（佐野市、栃木市などに生息）として記載されるに至ったのである。そして、佐野市を流れる**菊沢川**は、中流ではナガレコウホネ、下流ではコウホネ（とナガレコウホネ）が自生するまさにホットスポットなのである。（上：ツバネの実（緑色）、下：カハツネの実（赤色）。黄色い花びらのように見える部分は、ガク（花弁）



8月7日のSPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）は、この菊沢川に焦点を当て、2種類のコウホネの観察および川に生息している生物調査などを行った。菊沢川は湧水を源流とする澄清で豊富な水量を誇る河川で、そこに生息する魚類などの種類も多い。当日は、県立博物館から植物担当の齊藤さんと昆虫担当の大島さん、「メダカ里親の会」の**中荻さん**が講師として来てくださった。

午前中は、中流域にあたる**菊川町**での観察。この町内会では、1992年から定期的に菊沢川の清掃活動持续开展しており、3年前に「**菊沢川の清流とコウホネを守る会**」が結成されたそうだ。開花期の6月から10月まで月2、3回、川に入って河床や護岸の草刈りなどを行っており、花の数は着実に増えているという。ナガレコウホネは、葉が常に水中にある「**沈水葉**」しかつけないのが特徴で、茶色いわかめのような感じである。また、参加者による30分間の生物採集で、**スナヤツメ**、**ホトケドジョウ**、**ジュズカケハゼ**など、絶滅危惧Ⅱ類に選定されている魚類を確認することができた。かつては、国の天然記念物である**ミヤコタナゴ**が生息していたという。

午後は、下流域にあたる**船津川町**に移動。**コウホネ**の観察を行った。（ここはもう清流と言えるほどきれいではない。）コウホネは、沈水葉だけでなく、水上にも葉をつけるのが大きな特徴。このコウホネが**約1キロ**にわたって自生しているのである。

湧水を源とする菊沢川。貴重な自然の宝庫であることを再認識した一日だった。